

1 全体計画

学校の教育目標 地域の未来を担う子  
 体：からだのけんこう 徳：こころのやさしさ 知：まなびをきわめる

平成29年度学校経営方針  
 ○子ども一人ひとりの自尊感情（自己有用感・自己肯定感など）を高める。  
 ○教育活動実施の判断基準は、子どもの成長にとって必要か否か。  
 ○子どもにウソをつかない教育活動を行う。

本校のとらえる「確かな学力」

「確かな学力」育成のための指導の重点

- ・各教科での基礎的な知識・技能
- ・習得した内容を活用するための思考力・判断力・表現力
- ・児童一人一人が主体的に学習に取り組む態度
- ・集団として学び高め合うための指導の充実
- ・課題解決的な学習や体験的な学習の充実
- ・指導と評価の一体化
- ・評価規準に基づく個の見取りと個に応じた指導の充実

平成29年度の指導の重点

<各教科>

課題解決的な学習や体験的な学習を重視しながら、「思考・判断」した内容について、進んで「表現」する児童を育てる。  
 少人数指導等を活用し、個に応じた指導を充実させ、基礎・基本の定着を図る。

<総合的な学習の時間>

地域の「ひと・こと・もの」とのかかわりを通し、各教科との関連を図りながら、課題をたてて解決する力、様々な人とかかわる力、考えをまとめて分かりやすく表現して発信する力を育む。

<道徳>

思いやりの気持ちをもって行動する児童を育成する。  
 全教育活動を通して道徳性を育む。学習指導計画に基づき、地域の人材を活用しながら、道徳の時間の充実を図る。

<生活指導>

人とのかかわりに重点を置いた取組を行い、人とのかかわりの第一歩である「あいさつ」を核に、コミュニケーション能力を高め、社会の一員としての自覚をもたせ、社会に貢献する気持ちを育てていく。

<特別活動>

学級活動・児童会活動・クラブ活動・学校行事を通して、意図的・計画的に異学年との交流を深め、望ましい人間関係を築こうとする自主的・実践的な態度を育てる。

<進路指導>

児童一人一人が自分のよさを知り、働く喜びを体験することで、意思決定能力を育て、社会生活に適応した生き方を進んで考え、自分で進路を選択できる素地を養う。

授業改善の視点

指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	評価の工夫	校内研究・研修の工夫	家庭・地域との連携の工夫
<ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数指導や学年TTの充実を図る。</li> <li>・自分の考えを伝え合い、学び合う活動の継続を図る。</li> <li>・学習指導支援員等を活用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体力向上プログラムに基づく、年間3回の体力向上月間において、年間を通して指導の充実を図り、健康な心と体を育てる。</li> <li>・朝読書の時間を継続的に取り、読書活動の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一単位時間の指導事項を明確にして、指導と評価の一体化を推進する。</li> <li>・自己評価や相互評価の効果的な活用を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語「書くこと」の学習に重点をおき、「単元計画」を工夫したり、「書けるようになるための工夫」を充実させたりして、児童の表現力を高める。</li> <li>・教員相互の授業公開を積極的に行い、授業力を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の人材（保護者、民生児童委員等）の活用を図る。</li> <li>・2回の通知表と面談を通して家庭との連携を深める。</li> <li>・児童に地域との積極的なかかわりを促す。</li> </ul>

## 2 各教科における授業改善プラン

### (1) 国語科

#### 国語科の重点

- ①校内研究も生かして「書くこと」の指導法を工夫し、読む力を育む。
- ②各領域において、学習の系統性を重視し、螺旋的・反復的に繰り返しながら学習を行い、能力の定着を図る。
- ③授業を通して、基礎的・基本的な知識・技能の習得を図る。習得した内容は、授業だけでなく家庭学習でも活用できるようにする。

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>国語の学習には興味を持って取り組んでいる。文章を楽しんで書くが表現や内容には経験上の差がある。また、ひらがなを書くことにも支援が必要な児童がいる。読む力については、個人差が大きく、ひらがなを読むことにも支援が必要な児童がいる。読書については、読み聞かせも自分で読むことも楽しんでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>話し方・聞き方に関する<b>基本的な知識・技能</b>を繰り返し指導しているが、まだまだ定着していない。鉛筆の持ち方、姿勢、ひらがなやかたかなを正しく書くこと、長音・拗音・促音・撥音などの正しい表記の仕方に課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国語の授業で習得した話し方・聞き方の<b>基本的な知識・技能の習得を確実なものにするために</b>、話し方・聞き方の指導を他教科でも繰り返し行っていく。絵日記や連絡帳の記入を通して言葉のつながり方を知り、文章を書く活動に慣れさせる。また、学習した文字を正しく丁寧に書くことも継続して指導する。</li> </ul>
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>区の学力調査によると、学校の平均正答率は、全領域において区の平均を上回っている。また、国語への関心意欲態度においても、高い値を示している。</li> <li>38%程度の児童が、区の平均正答率を下回っている。「書く能力」において、課題のある児童が一定数いる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な知識や技能が身に付いている児童は多い。</li> <li>自分の思いや考えをうまくまとめて発表できなかったり、書いて表現したりするときに何から書き始めてよいか分からず、戸惑う児童もいる。</li> <li>片仮名にするべき表記を平仮名にしてしまったり、助詞を書き誤ったりする児童もいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表したり、作文したりする前に、取材カード等を充実させる時間をしっかりと確保していく。</li> <li>宿題の日記を年間通して継続していく。よく書いている児童や豊かな表現をしている児童の日記を紹介し、仲間から学べるような環境をつくと共に、日記への意欲を高められるようにする。</li> <li>作文をした後は、児童間で交流させ、よいところや表記の誤りといったところをチェックし合えるような場を設ける。</li> </ul>
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>区学力調査によると、全領域において区平均を上回っている。</li> <li>「読むこと」に関して、物語・説明文の内容を読み取る問題では校内正答率が85.1%、80.9%と高い値となっていた。</li> <li>「書くこと」に関しては個人差が大きく、漢字の書き取りや作文については、正答率100%の児童が6割強いる反面、未回答の児童も1割ほどいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「読むこと」に関する力はおおむね身につけている。設問に対して、どのように答えたらよいか戸惑う児童もみられる。</li> <li>文章の構成を考える以前に、「何を書いたらよいか分からない」「どのように書き出したらよいか分からない」という児童もいる。また、内容をより詳しくすることが難しい児童もいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「読むこと」と「書くこと」がつながるように、読み取った根拠を明確にして書くような学習を繰り返し設ける。</li> <li>書くことが苦手な児童の支援として、書く学習の際には、モデル文を用意・提示し、どのように書けばよいか見通しをもたせられるようにする。</li> <li>メモ→段落ごとの文→全体の文というように順を追ってその都度支援し、文の組み立て方を学ばせる。</li> <li>書いたものを交流する場を設定し、書くことや書き終わることへの動機付けや、よりよい内容にする手立てとする。</li> </ul>
4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>区学力調査によると、全領域において区の平均を上回ってはいるが、特に「書くこと」に関しては個人差が大きい。</li> <li>一番正答率が低かったのは、『調べた結果の表をもとに文章を書く』問題の「読むこと」「表と文章を関連付けて考えることができる」では、全国平均を上回ってはいるものの、校内の正答率は36.9%となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手や目的に応じた文章を書く力や、自分の考えや思いを書くための知識や技能を身に付けるために、指導の工夫が必要である。</li> <li>叙述に即して読むことや、意見と事実を読み分けることを苦手とする児童が多い。また、表や図と文章の内容を関連づけて内容を読み取ったり、段落の意味を考えて文章の構成を理解したりすることに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「書くこと」については、モデル文の活用やメモから言葉を増やして文章を書いていくことを手立てとして、様々な書き方で自分の考えを書く活動をくり返し行う。また、語彙を増やすため漢字の学習や読書に日常的に取り組める時間を確保する。</li> <li>「読むこと」については、説明的文章を中心につなぎ言葉や文末表現等に注目して読む習慣を身に付けさせる。また、段落ごとに内容を要約したり小見出しをつけたりすることで文章の内容や構成について理解を深められるようにする。</li> </ul>
5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>区学力調査によると、全領域で区の平均を上回っていて、特に言語についての知識理解が高い。しかし、「発表の内容を聞き取る」問題の正答率が66.5%と他観点に比べると低くなっている。</li> <li>目標値を大きく上回る児童と下回る児童の数値の差が大きい。下回る児童は、特に文章を書くことができていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「話す聞く」ことに関して、発表をするときにどのように話せばよいか、どのようなことに気を付けてメモをとったらいいのかについての理解に課題がある。</li> <li>3部構成の作文はできるが、「自分の意見」と「事実」を分けた作文を苦手とする児童が多い。そのための指導の工夫が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業中の発表の仕方とその聞き方について改めて形式を示す。それを繰り返すことで、話すために必要な工夫を理解させていく。また、話の核となる部分をつかませるために、何について話しているのかを常に確認する。</li> <li>メモのコツ（箇条書きや記号使用など）を指導する。</li> <li>文章を書く前に「資料から分かる事実」と「読み取れること」を明確に分けてから、メモに沿って作文を書くようにする。</li> </ul>

6年

・区学力調査の達成度では、すべての領域において区の平均を下回っている。特に、『関心・意欲』『言語についての分野』では、10ポイント近く下がってしまう。唯一書く力は近似値を保っている。繰り返しの練習や、文章を読むことへの喜びが少ないのであろう。

・基礎的な力は、おおむね身に付いている者と極端に定着しない者との差が著しく、個人差が大きい。日頃より新出漢字や単語の定着を図っているが、自ら課題に取り組む中で、それを活用する力が不十分である。また、文章を書いたり、要約したりする力を高めることも課題である。読書をする際の本の選定にも指導が必要である。

・それぞれの単元で身に付けたい力を明確にすることで、目的をもって学習させる。根拠を明らかにしながら読み取りを行うよう授業の構成の工夫をする。また、音読を通して読む力を向上させると共に文章に接する喜びを味わわせたい。

・「書くこと」では、各教科と関連させて指導を行い、日常的に書く活動を取り入れる。

・読書においても本の選定において教師からの示唆を随時するようにする。

(2) 社会科

社会科の重点

- ①社会的事象に関心をもち、進んでかかわり、それらの意味、働きを多面的に考え、公正に判断できるようにする。
- ②習得すべき基礎的・基本的な知識・概念や技能を明確にするとともに、各種の資料を効果的に活用し、社会的事象の意味などを解釈したり事象の特色や事象間の関連を説明したりするなどの言語活動を重視する。

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の周りや中野区の様子に興味・関心をもって学ぶ児童が多い。</li> <li>・町探検や社会科見学で見聞きした事実をまとめる学習はできるが、事実から考えられることを文章で表現することが難しい。</li> <li>・区内の建物や鉄道を利用している児童は多いが、地図上での位置関係をとらえることに課題が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会科見学等のまとめを行う際、事実から考えられることをじっくり思考する時間の確保が不十分だった。</li> <li>・白地図に土地の様子や使われ方についてまとめる際、個人で資料を読み取って書く学習が不十分だった。また、記入がきちんとできているか一人一人の白地図を確認し、知識の定着を図る必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見聞きした事実からどのようなことが考えられるか、思考する時間を授業のなかで十分に取るようにする。</li> <li>・白地図等にまとめる学習では、全体で確認したことを書き写させるのではなく、個人で資料をもとに考えて書かせるようにする。また、書いたものの内容が十分であるか確認する。</li> </ul>
4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活経験に基づいて考えられる学習や社会科見学、体験学習等では進んで活動に取り組んだり、質問をしたりするなど意欲的に学習に取り組む姿が見られる。</li> <li>・関連付けたり、応用したりして考えることに課題が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会科見学や体験学習などで調べた事実を基に自分の考えをもつことが難しい児童がいる。</li> <li>・図やグラフなどの資料を注意深く見て、必要な情報を正しく読み取ることが苦手である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習問題、学習計画を立て、見通しを持って学習に取り組めるようにする。</li> <li>・図やグラフなどの資料から正しく情報を読み取ることができるよう、資料を読み取る機会を増やし、その視点を明確に示す。</li> <li>・毎時間、学習感想を書かせることで、常に学習したことに対する自分の考えをもてるようにする。</li> </ul>
5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちで学習問題や学習計画を立てることで、主体的に学習をしようとしている姿が見られる。</li> <li>・特に都道府県や区市町村の位置など、知識が十分に定着していないことがある。</li> <li>・学習問題に沿って、地図やグラフ等を比較し、関連させて、推論することに課題が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知識面において繰り返しの指導や、既習の知識などと関連付けて指導することが不十分であったと思われる。</li> <li>・学習問題に沿って、資料を吟味して読み取る方法の指導や資料に基づいて推論する経験が少なかったと思われる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知識面の指導においては、既習事項と関連させて指導し、折に触れて身に付けた知識を元にして考えたり、調べたりすることの大切さに気づけるように指導する。</li> <li>・まず、資料(文章資料、映像資料、地図、表、グラフ等)の読み取り方が身につくように、具体的な題材を用いながら指導・支援をしていく。また、調べる視点を明確にするなどの支援をして、適切な内容を調べ考えることができるようにする。その上で、読み取った内容を学習問題に基づいて選択・吟味し、推論する学習をする。</li> </ul>
6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・興味をもって意欲的に学習している児童が少ない。問題解決的な学習を進める上で調べたことについての要点を整理することが苦手な児童が多い。</li> <li>・必要な知識を覚えていくことが苦手な児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習全体において、調べ方を指導する機会を多く設定し資料の選定の仕方を指導の必要がある。</li> <li>・調べたことに対して、要点を絞って分かりやすくノートや新聞等にまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料活用の技能を向上させるために、調べる視点や考える視点を明確にする。</li> <li>・調べ学習を取り入れ、調べた情報をノート等にまとめるたり、メモとして付け加えて理解への活用ができるようにする。</li> </ul>

(3) 算数科

算数科の重点

- ①既習事項や体験を生かして基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けさせる。
- ②根拠を基に筋道を立てて考える数学的な思考力・表現力を育て、学ぶ意欲を高める。

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・半具体物を使って計算することはできるが、計算が遅いだけでなく、自力解決に向けて支援が必要な児童がいる。また、個人差が大きく、算数的な事象を日常生活に適応したり、文章題を解いたりする力が弱い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計算の意味や計算方法を、具体物や半具体物を用いて指導しているが、数や量の概念、算数用語が身に付いていない児童がいる。理解力に個人差が大きく、個に応じた指導を十分行うことが難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体物や半具体物などで操作する場面をより多く取り入れ、数や量についての感覚を豊かにする。ペアやグループでの学び合う場面を設定し、教えたり教えられたりすることで理解を深めさせる。</li> </ul>
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力調査の正答率は、ほとんどの項目で区平均を上回っているが、ひき算や文章問題の正答率が低い。</li> <li>・「とけい」「ながさ」「かたち」の定着にも差が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生で学習した繰り上がりのあるたし算や繰り下がりのあるひき算を理解できていない児童がいる。また、長さや水のかさの単位の換算を苦手としている児童も少なくない。</li> <li>・どの領域においても得意とする児童と苦手とする児童の差が開いてしまい、一斉指導が難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・繰り上がりのあるたし算、ひき算の定着を図るために教室に具体物や半具体物常備し、児童がつまづいた時にすぐに使えるようにする。また、計算問題に取り組ませる際には、半具体物を操作させることで、計算の流れを捉えやすくする。</li> <li>・算数ボランティアを活用し、理解に時間のかかる児童を個別に指導していく。児童同士の教え合いを授業の中で取り入れていく。</li> </ul>
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力調査の正答率は、「数学的な考え方」に関しては区の平均を上回っているが、その他は平均を下回っている。</li> <li>・「三角形と四角形」では7.2%、「長さ・かさ」では3.5%区の平均を下回っており、数量や図形についての知識・理解の能力が弱いことが窺える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計算では、繰り上がりのある足し算と繰り下がりのあるひき算、かけ算九九がまだおぼつかない児童がいる。長さや水のかさの単位換算の理解が十分ではない児童も少なくない。そのため、新しい学習への導入や積み重ねが難しい。</li> <li>・理解度や技能の差が大きいため、個別の支援が難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・習熟度別指導の中で前学年や前単元の内容に立ち戻る指導をしていく。</li> <li>・数カードや時計の模型や立体模型など具体物を使って指導する。</li> <li>・家庭学習を復習の機会としてさらに活用できるよう、内容を吟味する。</li> <li>・ノートの内容や学習の様子などを記録し、個々の理解度を確認する。</li> </ul>
4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力調査の正答率はほとんどの項目で区平均を上回っている。</li> <li>・「たし算・ひき算」「長さ・重さ」の内容の問題に関して、区平均を下回っている。</li> <li>・学力調査の正答率が70%未満の児童が14人いる。そのうち、40%未満の児童が2人いる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・習熟度別学習の中で、学力調査の正答率が70%未満の児童の学力向上を図るための単元構成を考える必要がある。</li> <li>・基礎的な計算力の向上を図るための指導法を工夫する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前学年や前単元の内容に立ち戻った学習を取り入れながら単元の学習を進め、学習内容の定着を図る。</li> <li>・「たし算・ひき算」は繰り上がりや繰り下がり注意到し、かけ算やわり算の筆算についても正確に計算できるよう、繰り返し練習する時間を1単位時間の中に設ける。</li> <li>・学習指導支援員を活用する。</li> </ul>
5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力調査の正答率は昨年度と同様、区平均をやや上回っている。その中で目標値を下回る児童は昨年度と変わらず、21人いる。</li> <li>・「角の大きさ」の問題でつまづきが見られる児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観点別では技能だけが区平均を下回っていて、この向上が課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・習熟度別指導の中で前学年や前単元の内容に立ち戻る指導をしていく。学習指導支援員を活用する。</li> <li>・児童がしっかりと図形の性質を理解することで、正確に作図をしたり、角の大きさを計算したりすることが出来るよう、指導していく。</li> </ul>
6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力調査の正答率は区平均を下回る項目が多い。その中で目標値を下回る児童が24人いる。</li> <li>・特に面積や体積を求める内容の問題に関して、区平均との差が大きい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・面積や体積を求める問題で、公式を活用し立式した後、正確に計算し答えを出すことに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・習熟度別指導の中で前学年や前単元の内容に立ち戻る指導をしていく。</li> <li>・これまでに学習した計算の仕方については、反復練習をするようにし、様々な場面で活用できるようにしていく。</li> </ul>



(4) 理科

理科の重点

- ①児童の諸感覚を働かせるような体験を取り入れ、児童が主体的に問題を見いだす学習活動を重視する。
- ②児童が見通しをもって観察・実験を行い、その結果を整理し考察し表現する活動を重視し、問題解決の能力と態度の育成を図る。
- ③学習内容を実生活に関連付けることで、自然の事物・現象について実感を伴った理解を図る。

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察や実験に大変意欲的に取り組んでいる。観察や実験のまとめを自分なりに行うことはできるが、実験結果から自分なりの考えをもつ活動においては個人差が大きい。</li> <li>・実験のパターンについて、既習事項に関してはテストで点数をとることができているが、応用が加わるとつまづいてしまう児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提示された実験や事物に対して興味を示し、学習問題を立てていくことができるが、課題に対する仮説や、どのような実験をすれば仮説について考察できるか、といった自分の考えをもたせることに課題がある。</li> <li>・課題に対し、結果を導き出して終わるのではなく、もう一度課題に戻り、課題に対する結果を受けて、次に繋がる自分なりの考えをもつ力を育てる必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の意見をまとめ、ノートを書き方やまとめ方を提示する。また、観察や実験を行う際は視点をさらに明確に示す。</li> <li>・予想をもち、実験を行い、分かったことを得て、考察をするという流れを繰り返すことで、問題解決の能力と態度の育成を図る。</li> <li>・友達と考えを共有する場を多く設ける。自分の考えをもつ際の視点等を、友達の意見を受けて自分でも上げていくことができるような児童間の交流の時間を確保する。</li> </ul>
4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然事象について、興味・関心をもって観察や実験に取り組んでいるが、自分なりに結果を予想すること、自然の事象や現象の働きについて時間や温度変化などと関係付けながら自分の考えをもつことが難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察や実験を行う際、既習事項や生活経験を基にして予想することについて個人差が大きい。</li> <li>・観察や実験の結果から考察する際、結果を引き起こす要因に着目して自分の考えをもち、それを表現できる児童は少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノートの記録の仕方と、観察や実験の進め方を「問題」「予想」「結果」「考察」とし、それぞれの活動を明確にしながらか作業することで、理解を深められるようにする。</li> <li>・グループや学級全体での話し合いを繰り返し行うことで、科学的な思考力、表現力を高める。</li> </ul>
5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験、観察に意欲的に取り組んでいるが、結果をもとに根拠を見いだし、考察することにつまづいてしまう児童が多い。結論を導き出すことが困難なことは学力テストにも如実に表れている。</li> <li>・既習内容と生活体験を関係付けて考えることが難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題解決を行うことで、実感をともなった理解を図る必要がある。実験や観察での経験を重視し、繰り返し行う必要がある。</li> <li>・実験、観察を通して、実験結果から課題に合った思考をする力を育てる必要がある。</li> <li>・「学びとらせたい知能や技能」と「育てたい思考や態度」を大別する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「問題作り」「仮説」「実験方法」「実験結果」「考察」「結論」の流れを繰り返すことで、問題解決の課程を把握させる。自分たちで問題解決をすることで、理解をより深める。</li> <li>・思考する時間を確保する。また、実験結果、考察を全体で共有するようにし、互いに学び合える時間も確保する。</li> <li>・自然の事物、現象の規則性、生命の連続性についての見方や考え方を養う。</li> </ul>
6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平均正答率で見ると、区の平均と同値である。観点別正答率で見ると、「自然事象についての知識・理解」以外は区平均を上回っている。しかし、全国平均では、全ての観点で下回っている。</li> <li>・実験や観察には意欲的に取り組む。しかし、学力調査を達成率で見た時に「技能」が最も低いことから、顕微鏡をはじめ、実験器具の扱い方などが定着していないことが分かる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークテスト前に、教科書のたしかめでの復習は行っているが、その他の教材を活用して「知識・理解」の定着を図っていない。</li> <li>・「技能」の定着を確かめるような、教材の活用をしていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「知識・理解」「技能」の定着を図るためのワークシートを活用する。</li> <li>・実験器具の扱い方を示したプリントを用意し、ノートに貼ることで、器具の扱い方を確かめられるようにする。</li> </ul>

(5) 生活科

生活科の重点

- ①気付きの質を高める学習活動の充実を図る。
- ②様々な表現活動を取り入れて、伝え合い、交流する活動を充実させる。
- ③活動（遊び）の中から知的好奇心を高め、自然の不思議さに気付くようにする。
- ④具体的な活動・体験を通して、考え、感じ、気付くなどして生活上必要な習慣や技能を身に付けたり、自立への基礎を養ったりする。

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な活動に意欲的に取り組む児童が多い。</li> <li>・様々な体験や、活動で学んだことや気付いたことを、自分の言葉で表現したりつぶやいたりできる児童がいる一方で、どのように表現したらよいかわからない児童もいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動自体には、意欲的に取り組めるが、その成果を絵や言葉で表現することが難しい。</li> <li>・周りの自然や環境の変化に気付かなかつたり、友だちとスムーズにかかわれなかつたりする場面が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉かけやワークシートを工夫したり、感じたことを児童に直接聞き取り教師が文章にしたりするなどして、多様な表現方法を伝えていく。</li> <li>・直接体験を増やし、自分の体験したことや感じたことを伝える機会を多くもたせ、友だちとかかわる場面を多く設定する。</li> <li>・教師が児童のつぶやきやよい気づきを的確に拾い、全体に広めていくような支援を行う。</li> </ul>
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人や自然に関わろうと意欲的に取り組んで活動している。</li> <li>・動植物に愛着をもって世話をする児童が多いが、動植物の世話をする経験が少ない児童もみられる。</li> <li>・学校や地域など、様々な人に支えられ、日々生活していることに気付いていない児童がみられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動には意欲的に取り組むものの、実生活の体験と結び付けたり、細部まで観察したりするのは難しい。</li> <li>・生活経験の差や動植物に対する好みの違いなどがあり、活動していても意欲・関心に同様の差が生じる。</li> <li>・普段の生活の中で、地域の方などのかかわりを意識することなく過ごしてしまっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現の難しい児童には、気づきを聞き取り、言語化する手助けをする。観察の視点を与えたり、よい気づきを拾い共有し広げたりしていくことで、気づきの質を高められるようにする。</li> <li>・身近な自然とかかわり合う楽しさを体感し、様々な事を感じることができるよう具体的な活動を計画していく。（ヤゴ救出大作戦など）</li> <li>・地域の方や保護者の協力を得ながら、学校や地域の良さに気付けるような活動を計画していく。</li> </ul>

(6) 音楽科

音楽科の重点

- ①音楽のよさや楽しさを感じるとともに、思いや意図をもって表現したり音楽全体を味わって鑑賞したりする力を育成する。
- ②学年に応じて音楽に関する用語や記号を音楽活動と関連付けながら理解して、音や音楽を知覚し、その良さや特質を感じとり、思考、判断する力を育成する。
- ③斉唱や合唱・合奏など全員で一つの音楽をつくっていく体験を通して、協働する喜びを感じられる指導を重視する。
- ④音楽と生活とのかかわりに関心をもって生涯にわたり音楽文化に親しむ態度をはぐくむ。

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しく歌ったり、曲に合わせて体を動かしたり、打楽器を使ってリズム打ちをしたり、<b>意欲的に</b>取り組んでいる。鍵盤ハーモニカは、進んで演奏するが、指使いやタンギングがまだ不十分な児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しく学習に取り組んでいるが、音程やリズムがうまく取れなかったり、鍵盤ハーモニカの指使いやタンギングが正しくできなかったりする児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・階名で範唱したり暗唱したりして、音程の感覚を<b>自然に身につけさせる</b>。また、楽器や体を使ったリズム遊びや、鍵盤ハーモニカのタンギング、指使いの指導などを丁寧に繰り返し行う。</li> </ul>
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進んで歌ったり、<b>音楽に合わせて</b>体を動かしたり、楽しく演奏したりしている。</li> <li>・鍵盤ハーモニカでは、指使いやタンギングに気を付けて正しく演奏できている児童は多いが、個人差もある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなで歌ったり演奏したりするときには目立たないが、<b>音程やリズムがとれていなかったり、いろいろな楽器の演奏や鍵盤ハーモニカの指使いなどが正しくできなかったりする児童がいる。</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一斉、グループ、二人組、個人と、活動人数や学習形態を変えて取り組む。練習の中で、友達と聴き合ったり教え合ったりする時間をとり、配慮が必要な児童には繰り返し丁寧に指導する。</li> </ul>
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しく音楽と関わり、のびのびと歌っている。リコーダーの学習が始まり、<b>意欲的に</b>取り組んでいる。基本的な姿勢や運指を身につけ、基礎的な表現の能力を高めることが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌唱活動では、<b>曲想にふさわしい声の出し方や歌い方を身につけることが課題である。</b></li> <li>・器楽活動では、基礎的な演奏の仕方を身につけることが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・曲想を感じ取らせるために、個人の考えを全体で共有する。曲想にふさわしい声の出し方や歌い方を範例で示すことで、身につけられるようにする。</li> <li>・リコーダーの学習では、ペア学習を取り入れ、基本的な姿勢をお互いに教え合える活動を取り入れる。範奏を聴くことで、音色に気付けられるようにする。</li> </ul>
4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌唱や器楽活動に対して、<b>意欲的に</b>取り組む児童が多い。基礎的な演奏法は身に付き、曲想にふさわしい表現を工夫していくことが今後の課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌唱に対する意欲を保ち、互いの声の重なりを意識して歌唱表現をしていく必要がある。</li> <li>・曲想に応じて思いや意図をもって表現を工夫していくことが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・互いの歌声や副次的な旋律、伴奏を聴いて声を合わせて歌えるように、意識をもたせながら活動させる。</li> <li>・曲想にふさわしい楽器の表現の仕方を身につけさせるために、表現の工夫の仕方を提示する。思いや意図をもつための、きっかけとなるようにする。</li> </ul>
5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌唱活動では、頭声で歌うことができる。器楽活動では、楽器の特徴を生かし、音を合わせて演奏できる。歌唱・器楽活動共に、曲想を生かした表現を工夫していくことが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌唱では、各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴いて、声を合わせて歌うように意識する必要がある。</li> <li>・器楽活動では、曲想を生かした表現をしていくために、合奏の経験を積むことが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な姿勢や発声の際、ペア学習やグループ学習を取り入れて、互いの声を自然に聴き合える力を育てる活動を取り入れる。</li> <li>・合奏の経験を増やし、多様な楽器に触れられるようにする。表現の工夫をするために、鑑賞教材を活用して、曲想を感じ取る練習をする。</li> </ul>
6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主に鼓笛の活動が多く、どの児童も<b>意欲的に</b>取り組むことができている。鼓笛の演奏に生かすために、鑑賞や歌唱をして、相互に関連させながら、音楽表現の喜びを味わえるようにすることが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌唱では、発声を意識して声を合わせて歌うことを意識することが大切である。器楽活動では、技能を高め、音楽的な表現力を高めることが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発声練習を取り入れて、自然で無理のない響きのある声づくりをする。器楽活動では、パート別に分かれ、活動の視点をもちたせることで、互いに技能を高められるようにする。鑑賞の活動を取り入れ、曲想表現に生かせるようにする。</li> </ul>



(7) 図画工作科

図画工作科の重点

- ①進んで表したり見たりする態度を育てるとともに、つくりだす喜びを味わうようにする。
- ②材料などから豊かな発想をし、見通しをもって自分なりの表し方ができるようにする。
- ③身近にある作品から、よさや面白さを感じ取れるようにする。

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習に興味をもって意欲的に取り組む児童が多い。</li> <li>・苦手、やる気が出ないなどの気持ちから学習に取り組めない児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・興味・関心をもてるような授業展開をする。</li> <li>・個別に指導する時間をつくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が興味や関心をもって取り組めるように、導入で具体的に作業を説明したり、やってみたいと思うような作品例を紹介したりする。</li> <li>・授業の途中で、工夫したり、優れていたり、頑張っていたりする作品や作業を紹介する。</li> <li>・配慮を要する児童に個別指導をしていく。声掛けをして児童が困っていることに助言したり、児童がやりたい作業をやって見せたりして、支援する。</li> </ul>
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習に興味・関心をもち楽しんで取り組んでいる。</li> <li>・創造的な技能に関しては個人差が大きい。</li> <li>・用具の基本的な取り扱いが十分とは言えない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現方法を考えたり、工夫したりすることに課題のある児童がややみられる。</li> <li>・手先の巧緻性が低く、細かい作業が苦手な児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の考えがふくらむような導入指導をしたり、個々の良さを認め励ますように声かけをしたりする。また、お互いの作品を鑑賞する時間をもつ。</li> <li>・具体的にどのように作業すればよいかを手本を見せたり説明の絵図を提示したりする。また個別指導を行っていく。</li> </ul>
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図工の授業に興味をもち意欲的に取り組む児童が多い。</li> <li>・思いのままに材料や用具を使う場面では個人差が大きい。</li> <li>・特定の児童が作業に遅れをとってしまう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分なりに工夫したりすることが難しい児童がいる。</li> <li>・手先の巧緻性が低く、細かい作業が苦手な児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手本を見せ、児童の考えがふくらむような声かけをしたりする。また、お互いの作品を鑑賞する時間をもち、表現の手がかりとなるようにする。</li> <li>・具体的にどのように作業すればよいか指示し、個別に指導を行っていく。</li> <li>・昼休み等を利用し、進度をそろえる。</li> </ul>
4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図工の授業に興味をもち意欲的に取り組む児童が多い。</li> <li>・特定の児童に技能面での課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な材料を活かして、表現方法を考えたり、工夫したりすることが難しい児童がいる。</li> <li>・手先の巧緻性が低く、細かい作業が苦手な児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手本を見せ、児童の考えがふくらむような声かけをする。また、お互いの作品を鑑賞する時間をもち、表現の手がかりとなるようにする。</li> <li>・担任と連絡を綿密に取り合い、児童一人ひとりに合った、指導の仕方を工夫し、課題のある子へのゴールを設定する。</li> </ul>
5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業に興味をもち意欲的に取り組んでいるが、自由に想像することに苦手意識を感じている児童もいる。</li> <li>・友達の作品を楽しんで見て、自分の作品にアイデアを取り入れられる児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分なりにイメージをもち自由に表すことに安心感が不足している児童がいる。</li> <li>・自由に自分の思いを試すことに楽しさを感じる経験の積み重ねが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的に友達の作品の鑑賞のポイントを提示し、自己肯定感をもてるような声かけが互いにできるよう指導する。</li> <li>・失敗を恐れずに自由に試すことができる教材の工夫に取り組み、やり直したり、失敗を活かしたりできる力を育成していく。</li> </ul>
6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習課題の条件が限定的であると、集中して取り組めるが、集中力が持続しない児童がいる。</li> <li>・一つの課題に対し、応用したり工夫したりすることに課題がある。</li> <li>・発想、技能面ともに個人差が大きく、作業に遅れをとってしまう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・制作の流れやポイントがつかめるよう、制作過程の見通しを持つことができる導入や板書計画の工夫が必要である。</li> <li>・学習課題に対して、発想を広げるための技能を育成する授業展開が必要である。</li> <li>・発想することや細かい作業に苦手意識をもつ児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アイデアスケッチを描いたり、制作全体の見通しをもたせたりして、その時間ごとのポイントを理解できるようにする。</li> <li>・前学年までにおける経験や、技能を生かしながら、多様な表現となるような題材を設定する。</li> <li>・担任と連絡を取り合い、補修等をしながら達成感を味わえるようにする。</li> </ul>

(8) 家庭科

家庭科の重点

- ①家庭生活への関心を高めるとともに衣食住などの生活の営みの大切さに気付く。
- ②生活をよりよくしようと工夫する能力と実践的な態度を育成する。
- ③実生活で活用するための基礎的・基本的な知識及び技能を身に付ける。

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題を達成しようと意欲的に学習に取り組む。</li> <li>・学習した知識、技能が身につけている児童が多い。</li> <li>・技能に個人差があり、作業に時間がかかる児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・繰り返し学習をし、技能を身につける題材構成にする。</li> <li>・個別に指導する時間をつくって、丁寧に指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技能の習得のために、前時に学習したことを使った課題を設定して、繰り返し学習できる題材構成にする。</li> <li>・安全な用具や器具の使い方を絵や写真、映像などの資料を活用したり、実際にやって見せたりして、分かりやすく段階的に指導する。</li> <li>・配慮を要する児童については、個別に指導する。授業時間では課題を達成できない場合は、休み時間や放課後の時間を活用して個別に指導する。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習などの作業をする学習に意欲的に取り組む。</li> <li>・5年生で学習した基礎的・基本的な知識及び技能が身につけている児童が多い。</li> <li>・学習したことを家庭で実践する児童はいるが、工夫して生活に生かす力が弱い。また、積極的に家庭での実践に取り組めない児童がいる。</li> <li>・知識・技能の習得に個別指導が必要な児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が考えたり、作業したりする学習の時間を増やす。</li> <li>・基礎的・基本的な知識・技能を活用して、自分の課題に取り組めるような題材構成にしていく。</li> <li>・配慮を要する児童には、個別指導する時間をつくり、丁寧に指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知識・技能を習得した後は、それを生かして自分の課題を解決していく問題解決型の学習を位置づけた題材構成、授業展開をする。</li> <li>・実践報告会を行って、友達との意見交流を行い、家庭での実践に積極的に取り組めるようにする。</li> <li>・保護者会やお便りなどで家庭での実践について、家庭の協力をお願いする。</li> <li>・配慮を要する児童には、授業中に個別に指導し、課題を正しく身につけるように指導する。授業時間に課題を達成できない場合は、休み時間や放課後を活用して個別に指導する。</li> </ul>

(9) 体育科

体育科の重点

- ①各種の運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにする。
- ②運動の系統性を図り、運動を一層弾力的に取り上げる。
- ③体力向上と健康的な生活のために、「体づくり運動」の一層の充実を図る。
- ④身近な生活における健康・安全に関する基礎的な内容を重視し、指導内容を改善する。

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動経験の個人差が大きい。意欲は高いが、今までの経験で苦手と感じた種目に挑戦することは難しい。体力テストの結果は、ほぼ平均値ではあるが、全体的に低めである。中でも、反復横跳びの値などが低く敏捷性に欠けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・休み時間や昼休みなど外で鬼遊びをしたり、遊具で遊んだりしている。しかし、鉄棒や登り棒などの器械・器具を使った運動の経験が少ない児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の中で運動量を確保したり、自分で考えた様々な遊びや動きをしたりして、体力向上を図る。また、授業だけでなく休み時間に鉄棒やのぼり棒やジャングルジムなどに触れさせるようにしたり、体力向上月間になわとびやマラソンに取り組みせたりして、筋力や持久力の向上を図る。</li> </ul>
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体力テストの結果、男子は、立ち幅跳びで、全国平均を大きく上回っているが、反復横跳び、ボール投げでは下回る。</li> <li>・女子は、概ね全国平均を下回っており、特に20mシャトルランでは著しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後の遊び方や習い事によって、運動習慣が著しく異なる児童集団となっている。</li> <li>・体力がなく、鬼ごっこなどでもすぐに疲れてしまい運動する時間が少なくなってしまう児童もいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内での運動遊びが休み時間にもつながっていくよう、意欲の向上を図る。</li> <li>・授業内での運動量の確保と、様々な運動遊びの中から、基礎体力の向上を目指す。</li> <li>・体力向上月間を活用して体力の向上を図っていく。</li> </ul>
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体力テストの結果、男女とも「立ち幅跳び」が全国平均を上回っている。女子は「上体起こし」「長座体前屈」においても上回る。「握力」「反復横跳び」「20mシャトルラン」「ボール投げ」が平均を下回っている。</li> <li>・休み時間は集団でボール遊びをする児童や一輪車に取り組む児童などそれぞれの興味に応じて体を動かしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年で見ると、全国平均と比較してほぼ同じでバランスはよいが、敏捷性・筋力を高める運動を取り入れる必要がある。</li> <li>・運動習慣に個人差があるため、授業の中で少しでも多く運動する時間を確保する必要がある。</li> <li>・授業以外の時間にも、敏捷性・筋力を高める運動に児童が積極的に取り組む機会を作る必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・敏捷性を高めるため、ジグザグ走・号令による前後左右のステップ等の運動を体育の授業で取り入れていく。</li> <li>・筋力を高めるために、垂直跳びやケンケン足跳びを体育の授業に取り入れていく。</li> <li>・縄跳びや鉄棒など、休み時間に取り組めるような学習カードを使用する。</li> <li>・休み時間に取り組みたくなるような運動を授業に取り入れ、多様な運動経験を促す。</li> </ul>
4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育の授業は多くの児童が楽しんで取り組んでいる。</li> <li>・体力テストの結果、男子は「握力」と「50m走」が、女子は「反復横とび」が平均を大きく下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動を楽しもうとする児童は多いが、休み時間に積極的に外へ出て体を動かさない児童もいる。</li> <li>・基本的な動きをバランス良く身につけるために、色々な運動の基本となる動きを取り入れる必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・肋木やのぼり棒などの運動器具を活用し、握力をはじめとする基礎体力の向上を図る。また、学習のねらいを明確に示したり、学習カードを活用したりして児童が進んで学習に取り組めるようにする。</li> <li>・体力向上月間を活用し、子供たちが意欲的に取り組めるよう、授業との関連を高める。</li> </ul>
5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体力テストの結果、男子は「50m」女子は「上体起こし」の全国平均を上回っている。一方、男女共に「反復横跳び」が全国平均を大きく下回っている。</li> <li>・体育の授業では、全員が楽しく運動に取り組むが、休み時間は積極的に体を動かす児童とそうでない児童との二極化の傾向にある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体力を高める運動の中にある「巧みな動き」を高める運動の指導が必要であり、体力の高まりを実感させていきたい。</li> <li>・中休みだけでなく、昼休みも児童が積極的に体を動かす機会をつくる必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体力向上月間では「バランス・リズムカル・タイミング・力を調整」することを意識させながら、「巧みな動き」を高めていきたい。また、柔軟性を高めるために準備整理運動の中に体ほぐしの要素を取り入れ、自身の柔軟性の高まりを数値化して分かるようにする。</li> <li>・体育の学習で日常化できる運動を紹介し、どの児童も休み時間に楽しみながら体を動かせるようにする。</li> </ul>

6  
年

- 体力テストの結果を見ると、男子は「反復横跳び」「ボール投げ」「シャトルラン」「上体おこし」、女子は、「握力」「ボール投げ」「立ち幅跳び」「シャトルラン」「反復横跳び」が全国平均を下回っている。中でも男女共通して最も低い値になっているのが「反復横跳び」である。
- 体育の授業では運動領域に関して、技能の習得に課題がある児童がいる。

- 体力を高める運動の中の、「巧みな動きを高めるための運動」と「力強い動きを高めるための運動」を授業の中で計画的に行う必要がある。
- 児童同士がポイントを伝え合う場を多く取り入れる必要がある。



- 体力向上月間だけでなく、他の領域での準備運動の際には「巧みな動き」と「力強い動き」を高めるための運動を取り入れ、継続的に指導していくことで、2つの体力の向上を図る。「巧みな動き」では、反復横跳びにつながるタッチコーンなど、敏捷性を高める運動を、「力強い動き」ではのぼり棒など握力を高める運動に取り組む。
- 児童同士の協働的な学習を取り入れる。児童に技能のポイントを分かりやすく提示するようする。